

北海道東部，厚岸町床潭沼コアに認められた 1843 年大津波および 3 層の 先史巨大津波痕跡

講演日時：9 月 10 日（月）13:00-14:00（コアタイム）

講演会場：ポスター会場（S10・11・12 会場）（堆積作用）P-70

コンタクトパーソン：重野^{しげの}聖^{きよゆき}之（明治コンサルタント（株）本店 〒064-0807 札幌市中央区南
7 条西 1 丁目 13 第 3 弘安ビル TEL：011-562-3066 e-mail：shigeno-k@meicon.co.jp）

要旨：北海道東部太平洋沿岸域は、千島海溝に面する本邦屈指の地震津波の多発地帯であり、過去 50 年間に限って見ても、1952 年十勝沖地震（M 8.2）、1973 年根室沖地震（M7.4）、2003 年十勝沖地震（M 8.0）といったマグニチュード 8 クラスの巨大地震が頻発しており、その都度多大な津波被害をもたらしてきた。しかし、この地への和人の入植は遅く、その為 19 世紀以前の古地震津波記録は存在しない。そこで人工改変を被っていない沿岸湿原や湖沼において、**津波堆積物**を用いた地震津波履歴に関する研究が活発に行われてきている。厚岸町市街地にある国泰寺^{こくたいじ}は道東で最も古く建立された寺院であり、その寺務日誌^{にっかんき}“日鑑記”には、道東最古の 1843 年（天保十四年）^{てんぽ}地震と津波の記述が存在する。しかし、その物証は必ずしも明確ではなかった。そこで我々は、2006 年 2 月と 2007 年 2 月の厳冬期において、厚岸町郊外に位置する海跡湖^{とこたんぬま}、床潭沼において氷上から 9 地点において柱状試料（コア）を採取した（第 1 図）、その分析の結果 3 つの新知見を得たので、日本地質学会第 114 年（札幌大会）学術大会においてポスター発表を行う。

(1) 今回、Ko-c1 テフラ（1856 年に降灰した北海道駒ヶ岳起源の火山灰層）と Ta-a テフラ（1739 年に降灰した樽前山起源の火山灰層）間に津波堆積物を認識することが出来た（第 2 図）。これは厚岸町国泰寺の日鑑記に記述されていた道東最古の地震津波記録であることを示す可能性が高い。

(2) Ta-b テフラ（1667 年に降灰した樽前山^{たるまい}起源の火山灰層）と B-Tm テフラ（937-938 年に降灰した韓半島基部の白頭山^{はくとう}起源の火山灰層）の間に 17 世紀、13 世紀、B-Tm テフラの下位に 7〜8 世紀の先史津波イベントが発見された（第 2 図）。

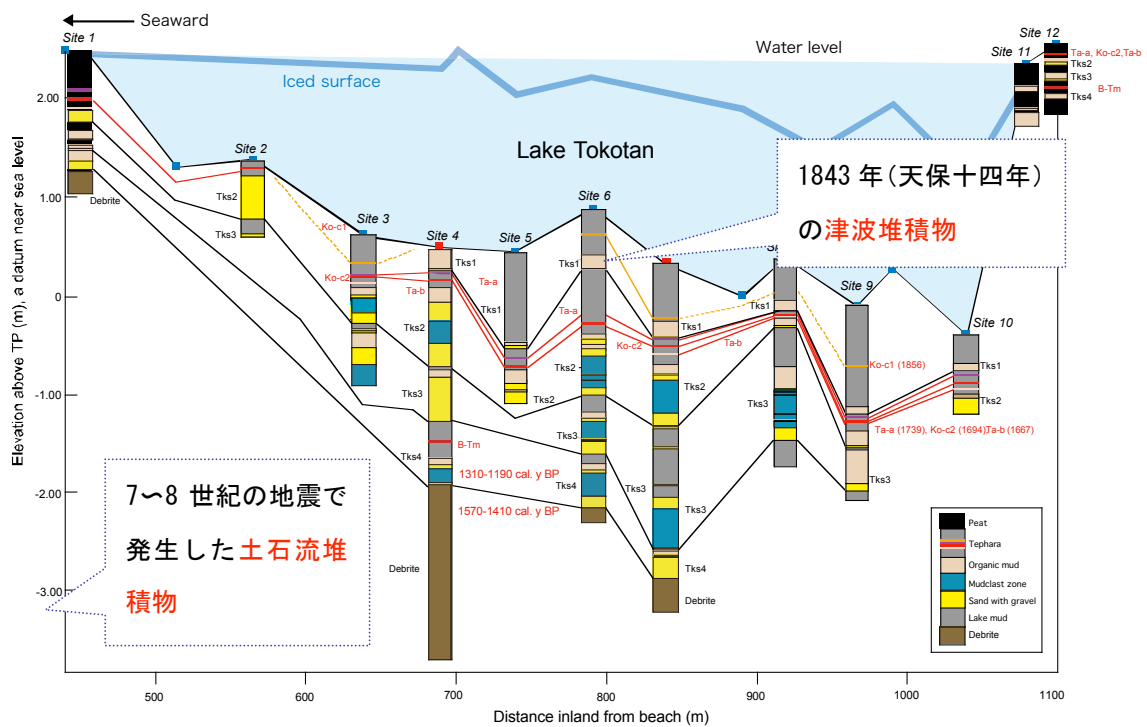
(3) 7〜8 世紀の津波痕跡の基底に**土石流堆積物**の存在が明らかになった（第 2 図）。この発生年代は津波と同じ 7〜8 世紀であることから、巨大地震によって大規模地すべりが発生し、その後津波堆積物に被われたと解釈することが可能であろう。特に、この地において 7〜8 世紀の津波の要因となった大地震の物証が認められたことは重要である。

用語説明：

- ・ **津波堆積物** : 津波によって海浜砂が浸食され陸上に打ち上げられた堆積物。過去の地震・津波の大きさや年代を客観的に示す物証として重要である。
- ・ **土石流堆積物** : 大規模な崖崩れによって生じた土砂主体の崩壊堆積物のこと。細礫～人頭大の礫を多量に含む。大規模な地震動によっても生じることが知られている。



第 1 図. 厚岸町床潭沼における氷上ボーリング作業の風景.



第 2 図. 床潭沼の湖底と周辺で採取された柱状試料の対比図. Ko-c1 テフラと Ta-a テフラに挟まれた Tks1 層が、今回新たに 1843 年(天保十四年)大津波によって生じた津波堆積物と認定さ

れた。更にその下位に3層の先史巨大津波の痕跡（Tk2～Tk4）の存在が確認された。